

1月定例記者懇談会

令和8年1月23日（金）

11時00分～11時40分 203会議室

出席者：みのわ新聞、長野日報、伊那ケーブルテレビ、信濃毎日新聞、中日新聞
事務局：唐澤、鈴木、小笠原、濱

町長月間予定（総務課）

○月間行事予定の説明

（補足）第8回日本ICT教育アワード「全国ICT教育首長協議会優秀賞」の受賞について
（別添資料 p2 参照）

町の主なトピックス（担当課PR分）

○町民菜園・交流菜園の募集について（みどりの戦略課未来農戦略係）

○みのわテラスEV急速充電器の設置について（みどりの戦略課未来農戦略係）

○「田んぼオーナー」について（みどりの戦略課農業振興係）

○「箕輪ふるさと検定」WEB受験について（公民館）

町長コメント

町長月間予定

(補足) 第8回日本ICT教育アワード「全国ICT教育首長協議会優秀賞」の受賞について

○概要

別添資料 (p2) にて説明

(町長) 当町の教育DXについては、タブレットの導入が一番早かった中、もう10年が経過し、1人1台パソコンになっても、いち早く取り組んできたということが評価されていると思います。また今回評価されたのは、教育委員会事務局の中にDX推進センターを作って、そこに支援員を3名配置し、各学校とのやり取りや技術的な支援、授業づくりの支援など、そういったことが評価され、要するに教員による授業づくりではなく、子供たちが主役の授業づくりができていたことが評価されたと思っています。

1人1台パソコンはあくまで道具なので、パソコンを使ってどんな授業ができるかだけではなく、学校生活や家庭生活まで踏み込んでいくような、こどもたちにならなければいけないと思っています。

1 町民菜園・交流菜園の募集について (みどりの戦略課未来農戦略係)

○概要

別添資料 (p3) にて説明

令和7年度の利用率は、町民菜園が96%、交流菜園が100%です。交流菜園では、移住を検討し、農業もやってみたいという県外の方も参加しています。

また、交流菜園を経験し、その後町民菜園に移行したり、ご自身で農地を借りたりしている方もいます。

(町長) 先日の道の駅検討委員会の際に、信州大学大学院の鏡さんから交流菜園についてお話をいただきました。県内でこういった形で指導者付きの制度は他に一つもないとのことでした。

農ある暮らしを進めるにあたって、非常に意義のある取り組みだということで、論文がいくつか書かれており、今9割が非農家ですので、非農家の皆さんが農に親しむという取っ掛かりとすれば、家庭菜園、町民菜園、交流菜園だと思いますので、100%の利用率になるのは、非農家の皆さんが農に親しむ状況があつてのことかなと思っています。

(記者) 交流菜園を終わられた方が移行しているという話がありましたが、どのくらい移られたか、また、実際に移住された方の具体的なお話や、有機栽培で交流菜園という話も議会で出たと思いますが、その状況についてわかればお伺いできればと思います。

(担当) 信州大学の鏡さんの資料に書かれている部分がありますが、手元に資料がないため、具体的な数値は申し上げられませんが、本日の記者懇談会参加者の中に交流菜園を終えた後、自

身で農地を借りて取り組んでいる方がいるので、お話をいただければと思います。

(交流菜園体験者) 交流菜園を一緒に受講した3人が仲間になって、交流菜園のすぐ近くの450㎡の土地を借りて3人で3分割して、それぞれ様々な野菜を栽培しています。

農業を全く農業やったことがなくて、交流菜園で2年間習わせていただいて、その後続けようということで、続けてきています。

(農業振興係長) 有機栽培などの菜園ですが、今町の方で環境に優しい農業の推進ということで、営農支援センターの再編成の中で、有機に関する部会を作ること検討していきたいと思っています。

また、環境にやさしい農業ということで有機農業をテーマとした講座を続けており、交流菜園16区画のうち1区画を環境にやさしい農業の講座用に確保して、そこで有機農業に関する知識も皆さんに得ていただくという形でやっています。講座に参加した方がその続きで交流菜園での講座にも出られています。

2 みのでテラスEV急速充電器の設置について (みどりの戦略課未来農戦略係)

○概要

別添資料 (p4) にて説明

2月中旬供用開始予定です。

3 「田んぼオーナー」について (みどりの戦略課農業振興係)

○概要

別添資料 (p5) にて説明

地元の美味しいお米を食べたい、農業をやってみたいけど田んぼがない、経験がない方、また有機農業にも関心が出てきている中、町では「田んぼオーナー」の実施を予定しています。場所については選定中ですが、北小河内公民館近くを予定しています。

(町長) これまで果樹でリンゴやナシ、ブドウのオーナー制度をJAや生産者もやっていましたが、田んぼについては行ってきませんでした。

お米の栽培の体験は小中学校ではやっている一方で、一般の方が体験する機会はありませんでしたが、農業体験の一つとしていいということと、お米が高くなったこともあり、ご要望、ご希望も聞いていましたので、田んぼオーナーという制度を始めます。

ただその中で無農薬無化学肥料が大丈夫かと心配していますが、できるようですのでこの収量を確保していただきたいと思っています。

無農薬、無化学肥料での栽培はできますが、田んぼオーナーという形で有機農業を始めるといことになると難しい部分もありますが、挑戦してみたいということで始めさせていただきますので、応募があればいいなと思っています。

(記者) 普段はどなたが管理をしてくださるのでしょうか。

(担当) 農家さんが行います。町としても協力、支援はしますが、基本的にはこの金額の範囲でやっていただくこととなります。

(記者) 対象者は町民の方でしょうか。

(担当) 対象は町民の方に限定したいと思っています。

4 「箕輪ふるさと検定」WEB 受験について (公民館)

○概要

別紙資料 (p6-7) にて説明

昨年 11 月に集合形式で行った箕輪ふるさと検定の Web 受験版になります。

合格された方には合格認定書を PDF データとしてメールでお送りしたいと思います。

認定書に加えて、回答に対する正誤表、それと解説書を今用意しています。

解説書は、元々試験問題を作ったときの箕輪学の本の中から該当する部分を抜粋し、簡単にまとめたものを添付してお送りすることを考えています。既に昨年受験された方には、紙で印刷した認定書と回答に対する正誤表を送っていますが、後日解説書もお送りして、理解を深めていただこうと思っています。

(記者) 昨年 11 月に行ったときの人数、何人受けて、何人合格したか数字を教えてください。

(担当) 10 人が受験申込みされ、9 人の方が受験し、9 人全員が合格しています。

(記者) 何かテキストなどが販売されていますか。

(担当) 「はじめよう！ ふるさと箕輪学」という冊子があります。博物館において 1 冊 500 円で販売しており、基本的にはそこから設問を作っています。

行政関係については年度ごとに変わりますので、そこは広報「みのわのみ」などを活用しています。

○町長コメント

1 月 29 日に補正予算にかかる臨時議会を予定しています。

その中で、重点支援地方交付金について、低所得世帯に対するエアコン設置に対する補助が県事業として出ており、生活保護世帯については、全額県が負担、非課税世帯については県が 3 分の 1、市町村が 3 分の 1、本人が 3 分の 1 という形でエアコン設置に対して補助する制度ができています。

それを町も受け入れる形で事業化したいと考えており、補正に組み込ませていただきます。

冬の寒さや夏の暑さを考えると、エアコンが設置されていない世帯もあると思いますので、この事業をぜひ使っていただきたいと思っています。

非課税世帯について、3 分の 1 は本人負担という形になっていますので、町としてもその内容で予算を検討し、当日提出させていただきたいと思っています。

また、予算編成作業が非常に難航を極めており、これはどこの市町村もそうだと思いますが、人件費の増加が非常に大きな状況になっていると思います。

人事院勧告等に基づいているものですので、当然賃上げをすべきだと思いますが、企業のように、賃上げをすれば売り上げが伸びるというものではありませんので、どうしても人件費率が上がってしまいます。

それが税収に結びつくには、かなり時間がかかり、景気の状態にもよりますが、税収が地方においてはなかなか結びつかないので、苦しい状況にあると思います。

これは当町だけではないと思いますが、特に当町においては、この1、2年製造業が非常に厳しい状況で、法人税の税収が上がらないということもあり、なかなか歳入歳出が合わない状況が続いています。

もう一点、先月学童クラブの方で不祥事があって大変皆さんにご迷惑をおかけしていますが、保護者等への説明会も終わり、通常の運営に戻っています。

学童クラブそのものの中で起きた件ではないですが、学童クラブの指導員のいうことでしたので、教育委員会としても大変責任等を痛感しており、関係職員に対する処分などについては、適切な時期に対応していきたいと思っています。

また、刑事事件の方は私ども全くわかりませんので、推移を見ていきたいと思っていますが、今のところ本件については承知をしておりません。

こういったことが2度と起きないように、学童保育の現場の適切な運営ということをこれから改めて考えていきたいと思っています。

非常に限られた時間に勤務をしていただくこともあって、人員の確保は非常に難しい所である一方で、そこに通う子供たちの数が、少子化にも関わらず増えていますので、なかなか対応が難しい状況にあります。

そんなことも含めて予算の中で考えるべきことは考えていきたいと思っています。

以上です。